

蟲の色々

記 者

古來歌によまれ俳句に吟せられ騷人墨客の友として鳴く蟲は優しく愛らしきもの、一つである。凡俗な縁日に市松格子葎張の屋臺の虫賣はたしかに一異彩を放つてゐる。扱て之等の鳴く蟲はいづれも野生の物は殆どなく皆人工で孵化するのである。然し賣物にする迄には一通りの苦勞ではな
い、素より羸弱い蟲の事であるから成育する迄には種々の故障が出来る、病氣に罹るもの羽や脚を折るものなど生じ完全に發育する數は少ない。
鳴く蟲には色々種類があるが普通なのは松蟲、鈴蟲、響虫、閻魔蟋蟀、葦、石鷄、鉦叩、金雲雀、大和鈴、邯鄲及び黒雲雀、草雲雀で、その中あとの五つは小蟲と云ふ。先づその中最も普通なのが鈴蟲松蟲で左に鈴蟲の飼養に名ある某氏翁の經驗談を記せんに。
私は一つ鈴蟲を飼つて見やうと、日本國中、鈴蟲

を以つて名ある土地から鈴蟲を取寄せて音を聴分けて見ました。米澤からも取り寄せました。秋田からも取りました。其他嵐山、宮城野、吉野、嵯峨野等、全国各地に涉つた中で最も音の冴えてゐるのは嵐山と宮城野産の鈴蟲です。其れで此の兩種を作つて見ませうと思ひ失敗に失敗を重ね苦心に苦心をつみて漸く目的を達しましたのが四年前です。其から更に淘汰に淘汰を加へて養成し音律もよければ身體も他の鈴蟲よりはズツト大きい嵐山鈴蟲を作り出しました。さて子を取るにはどうしたがいよかと云ふに。秋蟲として普通のとは異り八月頃より鳴き出す秋蟲を選び、雄を廿五匹に雌を五六十の割合で健全なのを別々に置き、雌雄共に鱈鰓等の濃厚なる食餌をやつて主として精力をつけるのです。而して秋の最中、先づ九月の候に赤土を盛つた箱へ一緒にしますと交尾して、直ぐに尾を土中に突きさして産卵致します。此の産卵は十一月迄も續き、雄は旋て斃死します。其の死骸を雌は喰つて仕舞ひますが又雌も間もなく死んで仕舞ます。其を捨て、置けば土中の卵は翌

年の春暖と共に漸次孵化しますが、其れを待つて居ないで温濕を加減して人工孵化をやるのです。普通人工孵化を行へば一月末に孵へりまして三月の末から鳴き翅が生へ五月の末にはチロリンリンと可愛い、聲をして鳴きはじめます。餌は馬齡薯胡瓜、茄子、菜類及び酸味の無い果物が一等です併し蔬菜や果物のみですと漸々音が曇つて參りますから、時々鱈や鰻を白焼にしたのを與へるがよろしい。さうしますと忽ち音が澄んで參ります。世人は大暑中に水をやる元氣が出ると申しますが、水氣は土砂に吹いてやるのも嚴禁しないといけません。又日光に當てる事も禁物です。以上は翁の實驗談ですが他の蟲も大同小異で、蟲共は初めて卵から孵つてから鳴く迄には六度皮を脱ぎ捨てると云ふ事である。餌は大概摺餌を用ゐてゐる。摺餌は小鳥の摺餌と同じやうに、米と糠と鮭とを白で搗き、摺鉢でよく摺り小松菜の葉の裏に塗つてやる。松蟲だけは鮭の入つたものは一切喰はぬから菜の葉や桑の葉をやる、嚙蟲などは鳴き聲も御粗末だが餌も到つて下等で芋の葉や藪辛子の葉

などが好きで、牛蒡南瓜などもたべる。以上松蟲や鈴蟲は大勢仲よく暮してゆくに反し蟋蟀や馬追や邯鄲などは小さな細長い箱をいくつにも區劃して各々一匹づゝ入れて置くのである。何かと云ふに此の連中は却々氣性が殺伐で同類相食み血を流すを何とも思はぬから區劃しておく。鈴蟲は比較的仕立て易いが松蟲には二種の恐ろしき流行病があつて一つは幼蟲の時不圖斃死して全身赤く變色するこれが一匹出來ると全體の一團體に大恐慌を來すので忽ち同族間に傳染し續々として斃死する。今一つは尻の劍の尖の方が付いて仕舞ひ糞が詰つて死ぬ。此の種の傳染病は闇魔蟋蟀にもある。是れは死骸に白い微が生えるので一匹出來ると直ちに他へ傳染する。豫防法としてはやつぱり他の蟲を近づけないより他にない。こほろぎは随分穢ない所に生育するから什麼所でもよろいかと云ふに中々さうでなく案外綺麗好の由。一般に蟲を繁殖させるには秋の末、赤土を壺に七分程いれ、雌雄の蟲を入れ置くべし。翌年六月下旬發生するのであるが、早く孵化さすには壺の口



を紙にておほひ寒中より、そろ／＼日向に出し春の暖かにて孵化したら麥粉を砂糖にませ蜜でねり板に塗り土にさしおく、幼蟲は之を喰べ生長する。鳴く蟲の中で一番愛玩するものは石鷄である。石鷄を飼ふには、古い澁氣のない木で一尺四方位の箱を作り、其の中央に岩を置き片端に赤土を入れ水をたへ二三匹入れて置く。上は全體目の細かい金網で覆ふ、秋の末には水を去り（箱に穴をあけしめしむ可し）其の後へ赤土を澤山に入れ、全體を風呂敷につゝみ又は瓶中へ赤土をいれ仕舞ひ置く。赤土の氷らないやうに注意してやる事が大切である。飼は小形の蠅であつて銀蠅は悪し。秋の末には小さき蚯蚓を與へるを可とす。石鷄は秋の末より夏の初めまでは何も食しない。

草雲雀、大和鈴、邯鄲等の如き小蟲には梨子を薄くそぎてやり時々焼鮑を與へるとよく鳴き。閻魔蟋蟀は名詮自稱で中々恐ろしき齒を持つて居ますから餘程丈夫な籠でないと思はれる。

最後に、こほろぎ鈴蟲は五錢位、松蟲六錢位、邯

鄲籠入二十錢、蟬蟲、草雲雀、鈕叩、大和鈴などは籠入十五錢位、石鷄は二十錢位より五十錢位あります。尤も石鷄には非常な逸物もあつて従つてその價も一定してゐない。（丁）

動物園の彩色

記 者

本年二月二日に京都市立の動物園でお産をした兒獅子のうち牡は檻から出てきて鈴鹿技師夫妻の手に座敷のなかで育てられて居ると云ふ事です。鈴鹿技師は細君と共に此の兒獅子を我が子の如く可愛がりて哺養して居るそうです。毎日精肉三百匁に牛乳一升五合宛一ヶ月約五十七圓の養育料を支出して育て、ゆく甲斐があつて生後百六十日計りで體量十貫目以上になり同園内の豹よりも大きくなりました。始めは兒獅子の御學友として二三匹の犬を召集した處が無邪氣な獅子皇子は他愛もなくころ／＼と轉び合つて喜んで居たが一日と